

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. B-3

部門名：働き方改革実践部門 エントリー名：福岡県糟屋郡須恵町立須恵第一小学校 石川 健一郎  
 平成30年 第1回 事務職員研修

活動名：学級会計システムの構築  
 ～負担軽減と会計の適正化を目指して～

解決すべき課題：

学級会計（学級費・教材費）について、本校では従来、学級担任が会計事務を担当していた。しかし、財務面での専門性を持たない教員が担当者であることや、事務処理がシステム化されていないことから、学期末等の多忙な時期において会計事務が大きな負担となっていた。  
 中央研修を受講して、学校財務は事務職員が専門性を大に発揮できる分野であることを改めて感じた。そこで、本校では、事務職員が学級会計事務の効率化・システム化に取り組むことで、教員の事務負担軽減を図りたいと考えた。

目標・方針：

物品・教材購入代金の業者への支払い及び学級費・教材費の会計報告書類作成等の会計事務全般について、効率的な事務処理システムを構築し、事務職員が一括管理を行うことによって、教員の事務負担を軽減する。あわせて、財務の専門性を持つ事務職員が携わることによる、会計事務の更なる適正化を目指す。

活動内容：

- 事務職員が一括管理を行うにあたって、教材費の名称を「教材等購入費」と変更し、学級費を学年単位で管理する「学年消耗品費」として教材等購入費の中に組み込んで、学年毎の会計を一本化した。
- 年2回（前期末・後期末）行っていた学級費の会計報告は、教材等購入費との統合に伴って廃止し、従来の教材費と同様、教材等購入費の会計報告を年1回（年度末）行うこととした。
- 事務職員の作業負担が極力少なくなるよう、エクセルシートを活用した業者支払金額集計のシステム化と、今年度より須恵町の学校に導入されたインターネットバンキングを活用した振込作業の効率化を図った。
- 学年消耗品費の執行については、従来の学級費と同様に必要物品の購入を随時行う形となるため、業者名・金額等を入力する簡易な入力シートを準備し、学級担任または各学年担当者が入力を行うこととした。

活動の成果：

- 教員が行う作業は、学年消耗品費で物品を購入した際のシート入力のみとなり、会計報告書類の作成等を行う必要がなくなったため、「会計事務の負担が軽減され、とても助かった」との声があった。
- 従来は会計報告書類の様式や記載方法について学級毎にばらつきがあったが、事務職員が一括して会計事務を行うことで様式等が統一され、きょうだい児の保護者等にとっても分かり易いものとなった。
- 従来の学級費を学年単位の予算である学年消耗品費とし、予算規模を大きくしたことで、児童1人あたりの徴収年額を従来よりも減額して会計を運用することが可能となり、保護者負担の軽減に繋がった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 学級費を学年消耗品費に変更し、残高や執行状況が一目でわかる学年共通のシートへの入力のみを教員に行ってもらうことで、教員の事務負担軽減を図ると同時に、学年内でのチェック機能の働きによる適切な予算執行への意識の向上を促した。
- 従来、学級会計事務は学期末の多忙期にまとめて行うことが多かったが、学年消耗品費での物品購入の都度シートへ入力してもらう形にすることで、一時期に事務作業が集中しないようにした。
- 教材等購入費全体の執行管理とあわせて、その中に組み込んだ学年消耗品費についても別シートでの執行管理を行うことで、費目の一本化による会計事務の効率化を図りながら、会計の明朗性を担保した。
- 公費予算の担当者である事務職員が、私費会計の学級・教材会計の管理を担当することで、公費・私費をあわせた学校予算全体の有効活用を目指した。あわせて、須恵町共同学校事務室にて作成した公費私費負担区分基準に基づく、適正な学校徴収金額の設定を図った。

資料1 <学年消耗品入力シート>・・・教員が入力

「入力の手引き」を作成し、入力作業が簡単・正確に行えるようにした。

資料2 <教材等購入費支払い管理シート>・・・事務職員が入力

資料3 <会計報告>・・・事務職員が作成

「教材等購入費」の中に「学年消耗品費」を組み込んだ。

資料4 <公費私費負担区分基準>

須恵町小中学校における公費私費負担区分について(案)

須恵町共同学校事務室

○須恵町小中学校における公費私費負担区分についての考え方を以下の通り整理します。  
 なお、私費負担に区分されている経費についても、今後可能な限り公費での負担を検討します。

① 公費私費負担区分の基準について  
 公費…学校の管理・運営において発生する経費、教科・生活指導において発生する経費  
 私費…児童・生徒個人の所有物に係る経費

② 公費私費負担区分一覧表  
 一覧表に表記のないものについては、公費負担を前提とした上で、その都度検討し決定する。

	公費	私費
教科活動費	教授・説明用教具、模型教材、映像・パソコン教材、運動・体育用具、ボール類、実験器具・薬品、工具・材料、調理実習材料、行事用消耗品、共用文具・消耗品、絵画・書道用紙、テスト用紙、配布物印刷用紙、インク・トナー、土・肥料・野菜苗(生活科用)等	辞書・辞典、ワープロソフト、筆記用具、定規、はさみ、絵具セット、習字セット、裁縫セット、リコーダー、体操服、水着、運動靴等
教科外活動費	氏名ゴム印、児童・生徒用図書、部活動用具、部活動試合用ユニフォーム、飼育用具、賞状用紙、通知表用紙、通知表用ファイル、要録用紙、知能検査費、傷病者輸送費等	名札、上靴、部活動練習着、観劇・音楽鑑賞費、修学旅行・宿泊研修費、遠足・社会科見学費、行事写真、卒業アルバム、日本スポーツ振興センター掛金(保護者負担金のみ)等
管理・運営費	清掃用具、衛生消耗品、燃料費等	給食費、PTA会費、校友会・生徒会費等
施設・設備費	管理用品、国旗・校旗、修繕料、樹木剪定費、花壇整備費等	なし